

全国農業



2022年(令和4年)

11月18日

金曜日
月4回金曜日発行

首都圏

特産・浅尾大根で地域PR

引き抜き体験 今年も

北杜市「まつり」で普及継承



浅尾大根を持つ大柴推進委員
(左)と事務局の清水さん

【山梨】全国有数の日照時間を誇る北杜市明野町。特産の「浅尾大根」が収穫期を迎えている。

青首大根に分類される浅尾大根は、茅ヶ岳南西斜面の赤土と火山灰土が程よく混じった保肥力の高い土壌で、朝から夕方遅くまで日に照らされ、甘みのあるまろやかな味わいになるのが特徴だ。同市では、毎年文化の日に浅尾ダイコンまつりを開催。今年も新型コロナウイルス感染症対策として、事前予約のうえ、

人数や時間の制限などを行い、大根抜き体験を実施。コロナ禍以前の盛り上がりを見せた。

浅尾大根の栽培と技術指導をしている農地利用最適化推進委員の大柴栄俊さんは「浅尾大根の普及を今後も継続して、地域農業の伝統を守ってきたい」と語る。

また、同町で浅尾大根を栽培する市農業委員会事務局の清水一成さんは「浅尾ダイコンまつりなどを通して多くの人に北杜市を知ってもらいたい。また、農業に興味を持ってもらい、担い手不足解消のきっかけになれば」と話している。